

### 第3回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

	市長	副市長	企画部長	地域戦略課長	地域創生係長	地域創生係	起案
決 裁							
開催日時	平成30年9月12日(水) 午前10時から正午まで						
開催場所	ゆいわーく茅野 3階 集会室						
公開・非公開の別	(公開)・非公開				傍聴者の数	0人	
議題及び会議結果							
発言者	協議内容・発言内容(概要)						
事務局	<p>会議次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1)前回の会議録の確認について</p> <p style="padding-left: 20px;">———— 説明 ————</p> <p style="padding-left: 20px;">質問・意見なし</p>						
事務局	<p>4 協議事項</p> <p>(1) 前回の会議以降に寄せられたご意見について</p> <p style="padding-left: 20px;">———— 説明 ————</p>						
委員	<p>鹿肉のジビエ料理以外の活用方法を研究するとあるが、具体的にどんなことか。また、県のホームページに掲載されていない市内のジビエ料理提供店があるとのことだが、ホームページに掲載してもらうよう積極的なPRが必要だと考える。</p>						
事務局	<p>ジビエ料理以外の活用方法として、残渣を利用したペットフードなどが考えられるが、詳しいことが分からないため調査研究していきたい。県ホームページへの掲載については、まだ掲載されていない飲食店を掲載してもらえよう県へ働きかけていきたい。</p>						
市長	<p>先月、石破前地方創生担当大臣が国会議員のジビエ議連として茅野市にお越しになられた。一緒にジビエ料理で会食をしたが、そこで提供されたスープがとても好評だった。そのスープを顆粒にして簡単に飲めるようにしたら面白いという話も上がった。そこでの会話でも思ったが、ジビエ料理や捕獲した鹿の活用に関しては多方面からの研究ができると考えている。</p>						
事務局	<p>(2) 茅野市地域創生総合戦略の改定について</p> <p style="padding-left: 20px;">———— 説明 ————</p>						

委員	追加記載される「公立諏訪東京理科大学を核とした地域ブランドの創出」の文中にある「外部資源である」という部分は不要ではないか。
事務局	ご指摘いただいたとおり不要であるので、削除する。
委員	今回の改正のなかにもある「産学公連携スワリカブランド創造事業」のプロジェクトに私の会社も参加させていただく予定である。諏訪東京理科大学が公立化され、これから核となる存在だと思うし、産業面でも市が動いていると感じている。私たちも仕事を通じて人を集めたり、技術を研鑽したりして地域の発展に私たちも力にいなっていけばいいなと思い日々取り組んでいる。それを踏まえてこの会議にも出ささせていただいたが、総合戦略で進むべき方向性が示されているので、行政がまちづくりを行うという人ごとの感覚ではなく、自分たちのことでもあると捉えて、数値目標の達成に市民として頑張っていきたいと思う。
委員	諏訪東京理科大学が今年度から公立大学になった。看板が変わったというだけではなく、東京理科大学とは別になり大きな後ろ盾はなくなったが、スピード感を持って自由に動けるようになった。地域連携研究開発機構をつくり地域の企業との連携が取りやすくなったり、スワリカブランドの取組として他の企業の方を特任教授として雇用したりすることができるようになった。これから公立大学としての役割を果たしていきたい。
委員	諏訪東京理科大学の学生を地域に定着させていくのが重要だと思う。今回のスワリカブランド創造事業に金融機関としてお手伝いしていきたい。行政で旗を振って取り組まれていくと思うが、情報共有をしていただければスワリカブランド創造事業で開発された様々な技術を販売していく販路開拓の協力ができると思う。
委員	諏訪圏域では茅野市は人口が最も多く、人口も比較的維持できている。要因としては地域の特性や恵まれた環境もあり、公立諏訪東京理科大学、ワークラボ八ヶ岳、観光の活性化や楽園信州ちのの移住促進などに取り組んでいる成果だと思う。今後も民間の連携としてバックアップしていければと思う。
委員	茅野市は、自然の資源や人材など長野県内でも恵まれた地域だと思う。他の市町村の取組として大町市の移住者対策として大町市は茅野市と似た環境であり山と一緒に来ないかということで行政が人を呼ぶのは難しいが山と溪谷社でツアーをつくって山の良さを知ってもらう企画をしている。婚活でも都会から女性を呼んでということで男性は市内限定で女性は都市部から来てもらう婚活企画で山での出会いの場をつくることをしている。山を登りながら交流することをしていて他にもいろいろ楽しい市町村の取組があるので、いい意味で真似して八ヶ岳の活用した人口減少対策ということもできると思う。
委員	諏訪東京理科大学が元気になってきて環境も良くなって、人口は横ばいだがもしかしたらこれから人口が増えていく可能性を秘めていると会議の中で感じた。先日ある番組でアイランドの特集をしていた。アイランドは北

	<p>海道よりちょっと大きいぐらいの面積で人口 35 万人のあまり大きくない国だが世界の平和度指数が 1 位になっている。火山国で温泉が出るので電力供給は地熱発電で賄っていて、残り湯は温泉水として国中で利用している。また温泉の熱を使って再生可能エネルギーとしてビニールハウスで年間通じて野菜や花、ブドウなどの果物もつくっている。少子化の問題では同じヨーロッパのフランス、スウェーデンの出生率が回復している。ヨーロッパで学ぶことが必要だと思う。住民として茅野市が安心安全のまちとして平和度の指数が全国 1 位になってほしいと思う。</p>
委員	<p>今回の改正で子育てに関する KPI が上方修正されることは嬉しく思う。先日、BS 番組で茅野市在住の外国人が紹介されていた。健康やインバウンドに取り組んでいる方で、茅野市の風景も非常にきれいな画像が流れていた。全国放送で取り上げられるのは茅野市にとってチャンスであり、こういったことを利用し、茅野市も関わったりして茅野市を宣伝していく方法もあると思う。</p>
委員	<p>この会議では女性の立場、男女共同参画の面から意見を述べさせていただいた。総合戦略を策定してから現在に至るまで子どもを取り囲む環境が変わっている。経済的な格差が生じていると感じている。婚活支援が上手く進まないという話があったが、市民と行政はギブ&amp;テイクのところがあると思う。市民が何かしろという訳ではないが、市民は参加することで得られるものがある。そういったことは若いお母さんたちには伝わっていかないし、難しいのかなと思いつつ、いま考えることがある。都会の 30 代 40 代のシングル女子はお金があつて週末だけ地方で暮らしたいという人が多い。そういった人たちに週末だけこちらで暮らしてもらうようなことも一つの提案かなと思っている。質問だが子ども食堂に取り組む団体が多くなってきている。そこで、茅野市の災害時用の備蓄食料は賞味期限がくると破棄しているのか。</p>
事務局	<p>備蓄食料の賞味期限は、ほとんどのものが 5 年となっている。5 年ごとに入れ替えるのではなく、毎年一部を入れ替えるようにして 5 年で一回りするような方法をとっている。その年に期限がくるものは、自主防災組織に差し上げて、防災訓練で使ってもらっている。そのため破棄するものはない状況である。</p>
委員	<p>それも大切だと思うが、それを貧困家庭に回せるようなことも他の課と一緒に考えてもらえたらと思う。</p>
市長	<p>茅野市地域創生総合戦略は来年度までの計画になっている。この計画は法律に基づき策定したが、次期計画をどうするか国の見解はまだ出ていない。ただし、国の見解に関わらず、こういった計画は必要だと思っているので、二次計画を策定することになったときには皆さんから再度ご意見をいただくことになると思うので、その際にはご協力をお願いしたい。別件で、佐藤委員のお話にあった情報共有とは、具体的にこういった形を望まれているか。</p>
委員	<p>情報共有の具体的な手段は考えていなかったが、例えばスワリカブランドの</p>

市長

研究会が立ち上がったならそこに参加させてほしい。参加させていただければ、どういったお手伝いができるか考えられるので、そういったことをお願いしたい。

どのような形で参加していただくのが良いか少し検討する必要があるが、そういった取組の際にはお誘いすることが多くなると思うので、ぜひご協力いただきたい。

(3) その他

5 その他

6 閉会